
笑えないギャグ

よっち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑えないギャグ

【Zコード】

N4051D

【作者名】

よつち

【あらすじ】

これはノンフィクションの話。ありえない…あなたは信じます?

(前書き)

駄文の風

忘れもしない 一月七日深夜一時頃。

その日は久しぶりに同じ中学だった友達と遊んだ。

ゲーセンでただ普通に遊んで軽くドライブした…

ここまではよかったです。

ある友達が言った『肝試し行くべ

いろんな案が出たけど辿りついたのは地元では有名な使われてないトンネル（バケトン）

ガソリンを満タンにして何事もなく着きました。

トンネルは狭いためトンネルの前に車を止めてみんなで歩いて行きました。

懐中電灯がないと真っ暗で何も見えないトンネル。 出口の光すら見えない。

しうがないからみんなで携帯のライトを頼りに出口に歩いて行きました。

やはり何度も来て慣れているため怖いと言つより寒かったです。

出口までついて一服して帰りました。

その一服途中に妙な音がトンネルの中から聞こえました。

足音のような岩が崩れたような。

みんながその事に気付いて今したがその事には触れませんでした。
一服終えて帰る途中何事もなく車まで着きました。

さあ帰つて寝ようとついで車はぶつかりました。^岩。

ホイールはぐしゃぐしゃになり走行不可能の状態に。
みんな啞然。

よそ見運転?違う。岩は見えていた。

ブレーキもなしに突っ込んだ。

それからレッカー車を呼び運んでもらい帰宅。

車は廃車。

ただそれだけの話。

地元では有名なところ。事故の噂があることになります。

全て本当の話だと思います。

運転してたの僕ですから。

(後書き)

初
投
稿

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4051d/>

笑えないギャグ

2010年12月3日06時46分発行